

サンカクフジツボの浮遊幼生調査

山内弘子

目 的

2020年夏季から秋季にも2019年に引き続きサンカクフジツボがホタテガイに大量付着したことから、サンカクフジツボの浮遊幼生が出現する時期を明らかにする。

材料と方法

2019年7～11月、2020年4～9月に久栗坂実験漁場（以下、久栗坂沖）、川内実験漁場（以下、川内沖）で毎月2回、2020年10～11月には久栗坂沖で毎週、川内沖では同年10月には月2回、同年11月には月3回海水中に含まれる浮遊幼生を北原式定量プランクトンネット（網地：NXX13、口径：225mm、採水口面積：0.04m²）を用いて海底の2m上方から海面まで鉛直曳きして採取し、10%エチルアルコールで固定した。検体を万能投影機で観察し、フジツボ特有の幼生であるキプリス幼生を計数した後、海水1m³当たりの密度を求めた。

結果と考察

調査期間中のサンカクフジツボのキプリス幼生（以下、キプリス幼生）の出現数の推移を表1、図1に示した。

キプリス幼生は、2019年には久栗坂沖で8月初め、川内沖で8月中旬から、2020年にはそれぞれ7月上旬、7月下旬から見られた。

出現のピークは、2019年の久栗坂沖では8月中旬に24.4個体/m³、川内沖では9月上旬に15.6個体/m³、2020年にはそれぞれ8月中旬に58.9個体/m³、8月下旬に45.3個体/m³見られ、2020年には2019年の2～3倍高い値を示した。

ピーク後の出現数の推移を見ると、2019年、2020ともに著しく減少し、11月には久栗坂沖では全く見られず、川内沖でもほとんど見られなくなった。

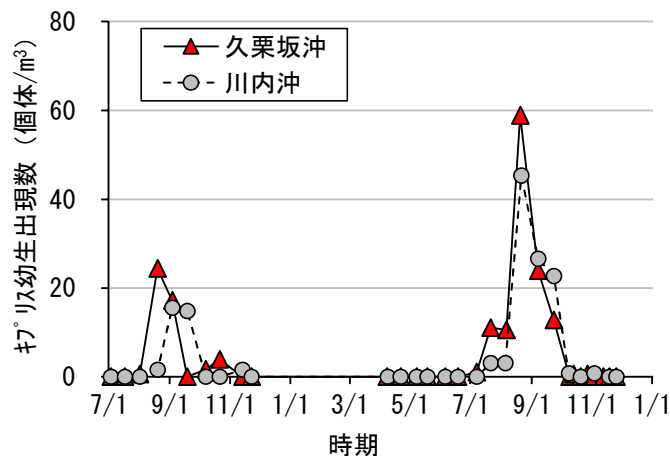


図1. 2019年7～11月、2020年4～11月のキプリス幼生出現数の推移

表1. キプリス幼生出現数

調査年月日	キプリス幼生出現数(個体/m ³)	
	久栗坂沖	川内沖
2019/7/3	0.0	0.0
2019/7/17	0.0	0.0
2019/8/1	0.6	0.0
2019/8/19	24.4	1.6
2019/9/3	17.2	15.6
2019/9/18	0.0	14.8
2019/10/7	1.7	0.0
2019/10/21	3.9	0.0
2019/11/13	0.0	1.6
2019/11/22	0.0	0.0
2020/4/7	0.0	
2020/4/8		0.0
2020/4/21	0.0	0.0
2020/5/7	0.0	0.0
2020/5/18	0.0	0.0
2020/6/5	0.0	0.0
2020/6/18	0.0	0.0
2020/7/7	1.1	0.0
2020/7/21	11.1	3.1
2020/8/5		3.1
2020/8/6	10.6	
2020/8/20	58.9	
2020/8/21		45.3
2020/9/7	23.9	26.6
2020/9/23	12.8	22.7
2020/10/8		0.8
2020/10/9	0.0	
2020/10/13	0.6	
2020/10/20	0.0	0.0
2020/10/27	0.6	
2020/11/3	0.0	0.8
2020/11/12	0.0	
2020/11/18	0.0	0.0
2020/11/25	0.0	0.0

このことからサンカクフジツボの幼生は早い年には7月上旬から見られ、出現のピークは8月中旬から9月中～下旬で、10月の出現数は1桁台に減少し、11月にはほとんど見られなくなることが分かった。なお、サンカクフジツボの付着は2019年、2020年ともに7～8月の稚貝採取時から11月まで見られ、ラーバ出現時期と一致している。

文献

- 1) 山内弘子・吉田達（2021）2019年のホタテガイ稚貝へのサンカクフジツボの付着状況．2019年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，354-357.
- 2) 吉田達（2021）2019年のサンカクフジツボの付着時期．2019年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，350-351.